

## 学校のひとコマ（12月13日 1年生・2年生の取り組みから）

12月13日（水）午後の時間帯は、1年生、2年生ともに外部から講師をお招きして学習を行いました。

### ◆1年生 人間と社会 講演会◆

1年生は、「支え合う社会について学ぶ～なぜ人は助け合い、支え合うのか～」という演題で、武蔵野大学 人間科学部 社会福祉学科 渡辺 裕一 教授にご講演をいただきました。



誰もが幸せに暮らせる社会を作ること为目标として、社会福祉士（ソーシャルワーカー）を育てている渡辺先生から、だれもが、いつか「自分らしく暮らせなくなる社会」へと進んでいくのではないかと、何かの理由で誰かが排除される社会は、いつかじぶんが排除される社会ではないかという問いかけがありました。生徒一人一人、社会の在り方、そして自分が社会の一員としてどのような社会を作ることを目指すのか、自分事として考える必要を迫られる講演でした。

### ◆2年生 裁判員制度を体験・理解する◆

2年生は、東京弁護士会の法教育プログラム「裁判員ってどんな仕事？」を行いました。弁護士の方々に本校にお越しいただき、各クラスに分かれ、裁判員の仕事を模擬体験するプログラムです。

裁判の模擬動画を視聴した後に、様々な資料を基に、被告人に「殺意」があったか、被告人に「正当防衛」が成立するか、など班ごとに議論し、有罪か無罪か結論を導いていく内容です。

裁判の結果が、1人の人生を左右していきます。それを踏まえて、証拠をもとに論理を構築していく難しさ、様々な視点から検討しても間違いがないように緻密に論理を組み立てていく大変さなどを実感した様子でした。

プログラムの最後には、講師の方々から、裁判員制度の意義や高校生への思いを語ってくださり、生徒たちは真剣に耳を傾けていました。

生徒たちは、来年度に18歳となり、選挙や裁判員などを通じて主権者として責任ある役割を担っていくこととなります。少しでも、その意義を実感してくれたらと思います。

